



## 高校生が考える“社会で必要とされる能力”と“現在持っている能力”とのギャップとは？

【高校生】 現在持っていると思う能力と将来必要とされる能力 (全体/それぞれ3つまでの複数回答) n=1752

			① 将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	② 現在持っていると思う能力 (%)	①必要とされる能力ー②現在持っていると思う能力のギャップ (pt)
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	51.5 1位	25.2 5位	26.3
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	37.2 2位	12.0 9位	25.2
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	14.7 10位	13.1 8位	1.6
考え抜く力 (シンキング)	創造力	新しい価値を生み出す力	30.1 3位	11.4 10位	18.7
	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	27.5 5位	14.6 7位	12.9
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	19.3 7位	8.3 12位	11.0
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	27.7 4位	9.5 11位	18.2
	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	19.7 6位	29.1 3位	-9.4
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	16.7 8位	34.0 2位	-17.3
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	15.1 9位	25.9 4位	-10.8
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	12.8 11位	15.1 6位	-2.3
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	10.7 12位	43.9 1位	-33.2
	ひとつもあてはまるものはない	0.1	5.5	②の方が高い ← ①の方が高い	
	無回答	2.9	3.7		

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート  
※●第1位の項目 ●第2~5位の項目

### 主体性や実行力が求められると考えるが、現在持っているのは傾聴力と規律性

第6回「データで見る高校生の今」では、リクルート進学総研と一般社団法人 全国高等学校PTA 連合会が実施した『第10回 高校生と保護者の進路に関する意識調査 2023』の結果から、高校生が考える将来必要とされる能力について紹介する。

この調査は、高校2年生とその保護者に対し、進路に対する考え方とコミュニケーションの実態を探る目的で隔年にて実施している。2023年の調査結果の中から、経済産業省が定義する「社会人基礎力」について尋ねたデータによると、高校生が考える“①将来社会で働くにあたり、必要とされる能力”は「主体性」(51.5%)がトップとなり、次いで「実行力」、「創造力」と続いた。これに対し、“②現在持っていると思う能力”を尋ねたところ、「傾聴力」(43.9%)、「規律性」、「柔軟性」となった。

“①将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力”について“②現在持っていると思う能力”だと答えている高校生を見ると、「主体性」は25.2%、「実行力」は

12.0%、「創造力」は11.4%となり、①と②のギャップが最も大きい能力でもあることが分かる。この質問を実施している過去4回分の調査結果と比較すると、少なくとも2015年から①と②のギャップが最も大きいものが「主体性」であることに変わりはない。その他これまでは「実行力」や「発信力」が続いていたが、“①社会で必要とされる能力”として「創造力」の割合が2015年から徐々に高まり、今回の調査で初めて「発信力」を上回った。

高校生が自負する強みである能力は「チームワーク」に関連したものに集中し、将来社会で必要だと思う一方で現在持っている能力とのギャップが大きい項目は「アクション」と「シンキング」に明確に分かれる結果となった。「チームワーク」を活かしつつ、「アクション」「シンキング」の力を伸ばす鍵として、2020年以降に実施されている教育改革を背景とした個別最適化された学習や探究型の学習の成果がますます期待される。

(文/岡田 恵理子)